

令和7年度 第3回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和7年12月22日（月） 13:30～14:45
場 所：WEB会議
構成員：18名

出席者：8名

伊良波 史朗(県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科)、北村 紗希子(琉球大学病院 第二内科)、喜納 綾乃(琉球大学病院 看護部)、古波津 万里子(沖縄県保健医療介護部 健康長寿課)、徳元 亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、浜田 聰(琉球大学病院 小児科)、増田 昌人(琉球大学病院 がんセンター)、屋宣 孟(県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科)、

欠席：10名

大畠 尚子(県立中部病院 産科)、親富祖 しのぶ(県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)、金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、呉屋 光広(県立森川特別支援学校)、當銘 保則(琉球大学病院 病院整形外科)、遠越 学(沖縄県教育庁 保健体育課)、林絹子(県立中部病院 腫瘍・血液内科)、比嘉 猛(県立南部医療センター・こども医療センター 小児科)、宮平 有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

陪席者：2名

平敷 千晶(琉球大学病院 産婦人科)
石川 千穂(琉大病院 がんセンター)

【報告事項】

1. 令和7年度 第2回小児・AYA部会 議事要旨(9月3日)

資料1のとおり確認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

資料3のとおり確認された。

3. 令和7年度 第1回沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 議事要旨(12月4日)

陪席の平敷委員より報告があり、資料2のとおり確認された。

カウンセリングシートが更新されているので、新しいバージョンを使用していただけるようお願いしたい、とのことだった。その中から、化学療法や放射線治療の内容は、助成金申請書類と同じ内容になっているので、書類作成のためにも、カウンセリングシートを記載していただけると少し負担が減ることになるようだった。主な課題や今後の検討事項としては、以下のとおり。

- ・外来受診時におけるカウンセリング料金について
- ・凍結した卵子や精子等の保管のためのキャパシティの問題

(他院で治療を行っている場合、患者さんの状況確認が困難。保管継続の手続きが年 1 回ということで、手続きを失念されたり、患者さんや家族と連絡が取れないことがある。)

4. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 委員一覧

資料 4 のとおり確認された。

5. 病棟における学齢期入院患者への Wi-Fi 無料開放について

資料 5 に基づき、浜田委員より報告があった。現在、学齢期のがん患者の学習のための Wi-Fi 無料化に向け、琉大の担当部署のほうで調整を進めている。今年度開催される部会や協議会等で、進捗を報告する予定である。

6. 沖縄県における医療機関の集約化と分散化について

(1)これまでの決定事項について

(2)がん種ごとの選定条件（小児がん・AYA 世代のがん）

資料 6-1 と 6-2 に基づき、増田委員より、がん診療連携協議会での決定事項について報告され、小児がんと AYA 世代のがんの選定要件について、読み合わせを行った。

AYA 世代のがんについては、次回の選定要件改定時には、多職種からなる AYA 世代支援チームを設置していることを検討する。

7. 「がん教育外部講師研修会」の開催報告について

(報告者の徳元委員の次の予定があり、順番を変更して会議冒頭に報告された。)

資料 7 に基づき、徳元委員より報告があった。研修会の内容について、参加者からは、概ね好評をいただいたようで、今後も継続的な研修開催、学校との連携を進めていきたいとのことだった。

(浜田委員)現在の外部講師の充足率はどのようにになっているか。

(徳元委員)学校から依頼があった際は講師を派遣できているが、浸透率がまだ十分とはいえないでの、離島などにも行けるようにしたい。小中高の他、専門学校からも依頼をいただくこともある。

8. 藤間 勝子先生(国立がん研究センター中央病院)のアピアランスケア研修会について

資料 8 に基づき、増田委員より研修会について案内があった。定員が 50 名だが、申し込みが定員を超えるようなら、病院と職種のバランスを見て事務局で参加者を選定する予定である。患者さん自身が元の生活ができるだけ維持できるよう支えになるようなカウンセリングがとても大切で、研修会を受けた医療者と受けていない医療者では、認識に隔たりがあるので、ぜひ受講していただければとのことだった。

9. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

10. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

資料 9-1 と資料 9-2 に基づき、古波津委員より報告があった。令和 7 年 11 月 1 日時点で、「アピアランス支援事業」は 24 市町村、「若年がん患者在宅療養生活支援事業」は 7 市町村が参加している。

11. その他

特になし。

《協議事項》

1. 各市町村に対する「若年がん患者等支援事業」への参加の働きかけについて

資料 10 に基づき、増田委員より提案があった。非常に優れた事業で、連携協議会でも評価されている内容となっている。今年 6 月に、連携協議会議長名(琉球大学病院長名)で各市町村に事業への参加を促す文書を送付してみたが、反応があまりないようだった。県内における AYA 世代の死亡数を見ると、市町村の財政を圧迫するような金額にはならないと思うので、この部会に参加している委員の皆様から地元の市町村に働きかけをしたり、主治医から患者さんやご家族に、こういう制度があることをご紹介いただけないかと協力依頼があった。

2. 第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)の中間評価について

当日資料(資料 11)に基づき、増田委員より説明があった。この部会では、「個別のがん対策」の「小児がん」と「AYA 世代のがん」をカバーする。全国がん登録の分析を東大の公衆衛生学講座と連携して進め、今月はじめて 2 次医療圏ごとの分析結果が出たので、小児と AYA も進めていきたいとのことだった。当日資料の指標と沖縄県の状況に関する読み合わせが行われた。数値を青文字で示しているのは、全国よりも悪いところである。

(増田委員) 医療の中で、専門家が少なくて困っているということはあるか。

(浜田委員) 指定病院としての要件は満たしており、特に少ないとは思っていない。

(屋宜委員) 特にない。

(増田委員) 血液の分野ではどうか。

(北村委員) 成人の場合は少なくて困っている現状にある。すぐに集約化となると難しいかもしれない。

ダブル主治医制で一般内科でも対応できるような体制を整えていくつつ、毎年、専門医を増やしていくよう、研修医の指導も重点的に行っている。

個別のがん対策

中間アウトカム 3-1

指標 小児がん患者の初診から琉球大学病院または県立こども医療センターを紹介受診した日

数 については、かなり短期間で、ほぼ例外なく紹介できているので、他の指標を立てたい。

その他、増田委員より、医師の QOL の改善について好事例の施設について紹介があり、学会レベルでも検討が行われているとのことだった。

3. 講演会の後援について

報告事項 7 と同様、こちらの審議事項も順番を変更して会議冒頭で提案があった。資料 12 に基づき、徳元委員より令和 8 年 2 月 28 日(土)に開催される「仕事と治療の両立支援」がテーマの講演会の後援依頼があり、承認された。

4. 次回開催について

次回は、3 月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。

3. その他

特になし。

以上

令和7年度 第1回沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 議事要旨

日 時：令和7年12月4日（木） 15:00～16:15

場 所：「Zoom」を用いたWEB会議

出席者：17名

阿部 典恵(中頭病院 乳腺科)、池宮城 梢(那覇市立病院 産婦人科)、伊差川 サヤカ(琉大病院 薬剤部)、石川 裕子(県立宮古病院 産婦人科)、稲嶺 盛彦(沖縄赤十字病院 第二産婦人科)、大畠 尚子(県立中部病院 産婦人科)、大嶺 菜(琉大病院 薬剤部)、兼久 梢(沖縄病院 呼吸器内科)、宜保 敬也(琉大病院 産科婦人科)、古波津 万里子(沖縄県保健医療介護部健康長寿課)、島袋 希美(若年性がん患者会 Be style)、友利 晃子(琉球大学病院 がん相談支援センター)、野里 栄治(北部地区医師会病院 外科)、平敷 千晶(琉大病院 産科婦人科)、増田 昌人(琉大病院 がんセンター)、宮崎 優樹(ハートライフ病院 産婦人科)、宮里恵子(浦添総合病院 乳腺外科)

欠席者：5名

金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、中上 弘茂(県立八重山病院 産婦人科)、野坂 舞子(友愛医療センター 産婦人科)、比嘉 猛(南部医療センター・こども医療センター 小児科)、銘苅 桂子(琉大病院 周産母子センター)、

陪席者：1名

石川 千穂(琉大病院 がんセンター)

【報告事項】

1. 妊孕性温存療法 WG から本ネットワークへの移行について
増田委員より、資料1に基づき説明があった。また、協議事項1(資料9)についても、併せて説明された。
2. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 委員名簿
資料2に基づき、確認された。
3. 前回 妊孕性温存療法 WG 議事要旨(6月24日)
資料3に基づき、確認された。
4. 小児・AYA部会 委員名簿
資料4に基づき、確認された。
5. 前回 小児・AYA部会 議事要旨 (9月3日)

資料 5 に基づき、確認された。

6. 沖縄県のがん患者等妊よう性温存療法研究促進事業助成実績

資料 6 に基づき、古波津委員より報告があった。妊孕性温存の治療が県内で広まっており、温存後の治療に移る患者さんが増えているようだった。

7. 紹介状況及び凍結状況について

(1)琉球大学病院

平敷委員より、資料 7-1 に基づき、報告があった。病院移転後、スムーズに治療再開ができるようだった。紹介元の施設として、乳腺甲状腺クリニックうらそえが新たに加わった。

(2)友愛医療センター

野坂委員が欠席のため、紙面報告となった。

8. 外来受診時におけるカウンセリング料金について

平敷委員より、資料 8 に基づき、説明があった。今後の取り決めについては、主に以下の通り。

- ・初診カウンセリングの際、1 時間あたり 11,000 円とする。
- ・30 分ごとに 5,500 円加算する。
- ・周知後の開始とする。
- ・2 回目以降の受診の際は、算定は行わない。
- ・妊孕性助成対象外となる。

(阿部委員) 今後、琉大に紹介する際は、紹介元施設から説明が必要なのか、または、紹介後に琉大から資料等がいただけるのか。

(平敷委員) 周知を十分に行ってから開始したいと考えている。院外紹介の場合は地域連携を通るので案内できると思われるが、院内の患者さんもいらっしゃるので、どのように周知したらよいか、もう少し審議をおこなってから共有したい。

9. その他

特になし。

【協議事項】

1. 抱点病院等において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか

増田委員より、資料 9 に基づき、説明があった。本来 100 パーセントであるべき、「治療開始前に生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合」をどのようにして向上させていけるか、この会議の中でご意見をいただきたいとの依頼があった。

(野里委員) 以前にいただいたかもしれないが、外来に掲示できるポスターを PDF で送付して

いただけるか。

(事務局) データを確認して、メールで全施設へ送付する。

(野里委員) カウンセリングは、やはり琉大まで行かないと受けることができないか。オンラインでは対応いただけるのか。

(平敷委員) どうしても本人が来られないケースもあるので、家族だけ受診し、テレビ電話で少なくとも情報提供だけでも行えるようフレキシブルに対応できればとは考えている。

(増田委員) 6つの拠点病院は、義務としてセカンドオピニオンやがん相談がオンラインで、対応できるようになっているので、それに準じた形で対応していけたら。本人確認や医師確認等、いくつか工夫は必要なようだが、医事課のほうに確認がしてみてはどうか。

(宮里委員) 患者さんには声掛けをするように努めているが、読み合わせることで誰が対応しても、網羅的に伝えることができるパンフレットのようなものを作成していただけないか。

(平敷委員) それについては県内共通の説明文書があるが、追加で記載が必要とおもわれる情報は、費用、助成金、助成対象年齢か。

(宮里委員) あとは、パートナーが必要か、など。

(平敷委員) パートナーがいなくても卵子凍結ができる等もわかるよう、また、費用についても概算にはなるが記載するなど、アップデートを検討させていただく。

改訂するにあたり、以下も含めて検討する。

- ・主治医からの説明の負担が増えて紹介のハードルが上がらないような作りを維持する。
- ・説明文の末尾のほうにあるサイン欄は削除してもよいのではないか。

平敷委員の指導の下、事務局のほうで改訂を行い、皆さんにメールで確認していただいて、ご意見をいただくこととする。

2. ネットワーク会議に各施設の事務担当者にも陪席してもらうことについて
平敷委員より、ネットワークには各施設の医師に参加してもらっているが、お世話になることが多い地域連携室にも陪席していただいたほうが、より連携が進むのではないかということで提案があった。特に意見がでなかつたので、改めて相談しますとのことだった。
3. 紹介状況及び凍結状況等に関する課題について
各施設から、特に症例紹介や相談等は出なかった。
4. 妊孕性温存後の凍結更新について
凍結後は、年1回更新意思の確認と管理料の支払いを行う必要があるが、琉大から連絡を取るなどの対応はしているものの、何年も未受診となってしまうケースが見受けられる。平敷

委員より、以下の対応が各施設で可能か相談があった。

- ① 治療施設のほうでフォローが続いている場合、凍結継続の更新をおこなっているか、患者さんにお声かけは可能か。
- ② 患者さんが亡くなられた場合の破棄手続きについて、家族に共有することは可能か。

(増田委員)医事課や産婦人科医局など、事務レベルで年1回確認を行うということは可能か。

(阿部委員)事務同士で、未受診の患者さんをリストアップして患者さんへの声掛けを依頼することは可能ではないか。

保管のキャパシティーの問題もある。また、臨床研究ということで助成金も成り立っているため情報登録をしなければならないことからも、ご本人の状況確認がとても重要なので、今後も相談を継続したいとのことだった。保存件数も多数あるので、漏れが出ないようなシステム構築を検討していきたい。

5. 次回開催日程について(2月予定)

事務局より、日程調整のアンケートを行う。

6. その他

特になし。

以上